

みどりのこえ

発行 長野県環境保全研究所
令和6年(2024年)9月20日

編集 長野県環境保全研究所 自然環境部(飯綱庁舎)
〒381-0075 長野市北郷 2054-120
TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929
E-mail:kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp



くくりワナにかかったツキノワグマ

シカやイノシシのワナに目的としない動物がかかってしまう「錯誤捕獲」。近年シカ・イノシシの増加に伴い、錯誤捕獲も増加しています。なかでもツキノワグマは深刻です。くくりワナでクマが捕獲された場合、人身事故のリスクが高まるからです。見回りに行った捕獲従事者がワナにかかったクマに襲われるケースや放獣作業中にクマに襲われるケースなどが各地で報告されています。長野県でも最近では2023年6月辰野町や2023年10月飯山市、2024年6月塩尻市などの事例があります。くくりわなは、箱わなや囲いワナよりも手軽で、一人で設置できることから気軽に利用されることも錯誤捕獲増加と人身事故を起こしやすい原因と考えられます。一方で、くくりわなによる捕獲は、長時間にわたってワイヤーロープで脚を締め付けるため、個体の損傷やストレスが多く、動物福祉の観点からも問題が指摘され、欧米ではくくりワナの使用が禁止されている国もあります。運よくワナから逃れることができても手足首や指先のワイヤーが外れずに欠損してしまう個体もいます。私自身もこれまでの調査の中で、3本足のクマや指先を失ったク

マに出会うことが何度かありました。

長野県は、錯誤捕獲個体の放獣体制が整備されており、原則通り放獣できている数少ない県です。そのため、繰り返しワナにかかる個体もいます。捕獲従事者は錯誤捕獲を狙ってワナを仕掛けているわけではありませんが、錯誤捕獲をしない工夫を積極的にしてほしいと思います。少なくとも、クマの錯誤捕獲が発生した場所や目撃のあった場所で、クマの活動期にくくりワナを設置することは控える必要があります。ワナは獣種を選びません。自身が設置したワナにクマがかかったら、自身や周囲の人々を危険にさらしてしまう可能性がある、ということ念頭に適切なワナ使用を心がけてほしいと思います。シカ・イノシシ捕獲も重要課題のひとつですが、くくりわなによる錯誤捕獲の問題もそろそろ真剣に取り組む必要があるのではないのでしょうか。

文・写真 中下 留美子 なかしたるみこ
(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所
野生動物研究領域 主任研究員

Contents

【巻頭言】くくりワナにかかったツキノワグマ (中下留美子/森林総合研究所・主任研究員) …	1
【特集】長野県のツキノワグマと保護管理方針 …	2
【Report】山と自然のサイエンスカフェ@信州(令和6年度) …	6
【Report】自然ふれあい講座(セミのぬけがらを探せ!2024) …	7

【Report】施設公開・親子環境講座/【スタッフ紹介】 …	8
【Report】草原の里100選 2023年に選定された草原の里 …	9
【適応センター通信】 …	10
【お知らせ】令和6年度のイベント予定 …	12